【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成23年2月24日(2011.2.24)

【公開番号】特開2008-5212(P2008-5212A)
【公開日】平成20年1月10日(2008.1.10)
【年通号数】公開・登録公報2008-001
【出願番号】特願2006-172639(P2006-172639)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｎ　5/232　(2006.01)
Ｈ０４Ｗ　52/02　(2009.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｎ　5/232　Ｚ
Ｈ０４Ｂ　7/26　Ｘ

【手続補正書】
【提出日】平成23年1月6日(2011.1.6)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
撮影を行う撮像機能部を有する撮像装置において、
前記撮像機能部の動作開始を指示する動作開始指示を検出する検出手段と、
前記検出手段によって前記動作開始指示が検出されると、前記動作開始によって前記撮像機能部における消費電力が前記動作開始前よりも増大する前に、前記撮像機能部による撮影の結果得られた画像データを無線を介して外部機器に転送する無線機能部を通常状態における消費電力よりもその消費電力を低減する低減モードに移行させる制御手段とを有することを特徴とする撮像装置。
【請求項２】
前記無線機能部の消費電力を低減する低減モードを解除する解除手段を有することを特徴とする請求項１記載の撮像装置。
【請求項３】
前記制御手段は、前記動作開始指示として前記検出手段によって前記撮像機能部の動作を指示のための操作が検出された場合に、前記無線機能部を前記低減モードに移行させることを特徴とする請求項１又は２記載の撮像装置。
【請求項４】
前記制御手段は、前記動作開始指示が前記検出手段によって検出された場合に、前記撮像機能部における撮影の動作、ミラーの駆動、フォーカス動作、ズーム動作、マクロモードでの撮影の動作、ストロボ充電、ストロボ発行、および液晶モニタの表示のいずれかが開始される前に、前記無線機能部を前記低減モードに移行することを特徴とする請求項１又は２記載の撮像装置。
【請求項５】
前記解除手段は、前記撮像機能部における撮影の動作、ミラーの駆動、フォーカス動作、ズーム動作、マクロモードでの撮影の動作、ストロボ充電、ストロボ発行、および液晶モニタの表示のいずれかが終了すると、前記無線機能部の前記低減モードを解除することを特徴とする請求項２記載の撮像装置。
【請求項６】

前記低減モードにおいて、前記無線機能部はその送信電力を低減することを特徴とする請求項１乃至５のいずれか１項に記載の撮像装置。
【請求項７】
前記低減モードにおいて、前記無線機能部は、当該無線機能部の少なくとも一部への給電を停止することを特徴とする請求項１乃至５のいずれか１項に記載の撮像装置。
【請求項８】
前記低減モードにおいて、前記無線機能部はその起動を禁止されることを特徴とする請求項１乃至５のいずれか１項に記載の撮像装置。
【請求項９】
前記解除手段は、前記無線機能部が前記低減モードへ移行してから所定の時間の後に、前記低減モードを解除することを特徴とする請求項２記載の撮像装置。
【請求項１０】
前記解除手段は、前記撮像機能部における消費電力が増大する動作を終了させる操作を検出した場合に、前記低減モードを解除することを特徴とする請求項２記載の撮像装置。
【請求項１１】
撮影を行う撮像機能部を有する撮像装置の制御部において、
前記撮像機能部の動作開始を指示する動作開始指示を検出する検出手段と、
前記検出手段によって前記動作開始指示が検出されると、前記動作開始によって前記撮像機能部における消費電力が前記動作開始前よりも増大する前に、前記撮像機能部による撮影の結果得られた画像データを無線を介して外部機器に転送する無線機能部を通常状態における消費電力よりもその消費電力を低減する低減モードに移行させる制御手段とを有することを特徴とする撮像装置の制御部。
【請求項１２】
撮影を行う撮像機能部を有する撮像装置の制御方法において、
前記撮像機能部の動作開始を指示する動作開始指示を検出する検出工程と、
前記検出工程によって前記動作開始指示が検出されると、前記動作開始によって前記撮像機能部における消費電力が前記動作開始前よりも増大する前に、前記撮像機能部による撮影の結果得られた画像データを無線を介して外部機器に転送する無線機能部を通常状態における消費電力よりもその消費電力を低減する低減モードに移行させる制御工程とを有することを特徴とする撮像装置の制御方法。
【請求項１３】
撮影を行う撮像機能部を有する撮像装置で用いられるプログラムにおいて、
前記撮像装置が備えるコンピュータに、
前記撮像機能部の動作開始を指示する動作開始指示を検出する検出工程と、
前記検出工程によって前記動作開始指示が検出されると、前記動作開始によって前記撮像機能部における消費電力が前記動作開始前よりも増大する前に、前記撮像機能部による撮影の結果得られた画像データを無線を介して外部機器に転送する無線機能部を通常状態における消費電力よりもその消費電力を低減する低減モードに移行させる制御工程とを実行させることを特徴とするプログラム。
【請求項１４】
請求項１３記載のプログラムを格納するコンピュータにより読み取り可能な記憶媒体。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００３】
基地局があるインフラストラクチャネットワークにおいては、パワーセーブモードは、アクセスポイント（ＡＰ）から送信される通常１００ｍｓ毎の周期的なビーコン送信に合わせる。そして、これを受信すべくステーション（ＳＴＡ）において無線部を起動して（

Ａｗａｋｅ状態）受信動作を行い、ＡＰがビーコンを送信しない期間はＳＴＡの無線部を休眠状態（Ｄｏｚｅ状態）に移行させる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
上記目的を達成するために、本発明の撮像装置は、撮影を行う撮像機能部を有する撮像装置において、前記撮像機能部の動作開始を指示する動作開始指示を検出する検出手段と、前記検出手段によって前記動作開始指示が検出されると、前記動作開始によって前記撮像機能部における消費電力が前記動作開始前よりも増大する前に、前記撮像機能部による撮影の結果得られた画像データを無線を介して外部機器に転送する無線機能部を通常状態における消費電力よりもその消費電力を低減する低減モードに移行させる制御手段とを有することを特徴とする。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２６】
無線機能部１０３は、ＩＥＥＥ８０２．１１に準拠した送受信機能を有し、アドホックモードでは定期的にビーコン（報知信号）を送信する機能を有する。また、パワーセーブモードを有し、周期的なビーコン送信に合わせて無線部を起動して（Ａｗａｋｅ状態）受信動作を行い、ＡＰがビーコンを送信しない期間はＳＴＡの無線部を休眠状態（Ｄｏｚｅ状態）に移行させることができる。また、無線デバイス中のＲＦ（Ｒａｄｉｏ　Ｆｒｅｑｕｅｎｃｙ）部、ＢＢ（Ｂａｓｅ　Ｂａｎｄ）部などの一部の機能部への給電を停止し、無線部の消費電力の低減するスリープモード機能を有する。デバイスＣＰＵ２０９は、無線機能におけるＭｅｄｉａ　Ａｃｃｅｓｓ　Ｃｏｎｔｒｏｌ（ＭＡＣ）層を主にプログラムにより実行する。当該プログラムはホストＣＰＵ２０１がメモリ２０２に格納されたプログラムを転送し、デバイスＣＰＵ２０９が受信し、メモリ２１０に格納したものである。